

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500397		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハートいなば(1番館)		
所在地	岐阜県各務原市大野町2丁目224番1号		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村受理日	平成28年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&amp;ij_gyosyoCd=2170500397-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&amp;ij_gyosyoCd=2170500397-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成28年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

移転し3月で6年目となります。利用者様と職員は家族のように絆が出来てきています。利用者の入れ替わりもありレベル向上しました。日中、フロアにて作品制作へ取り組みや、得意な家事に協力頂いたり、居室にて想い思いに過されていますが、利用者同士も馴染みの顔となりつつあります。家族のように、会話を楽しみ 理念である「3つの感謝」・人に感謝・日々に感謝・地域に感謝を職員が共有し、介護の仕事をして頂ける喜びを感じています。今後も温かい心の介護を続けていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念に揚げてある「三つの感謝」を心に意識し、チーム一丸となって利用者を尊重したケアに努めている。事業所はアットホームな雰囲気であり、訪問時には利用者の方々がゆったりと過ごしている様子が見て取れた。事業所周辺には民家が少なく、地域住民と日常的に交流する機会は多くないが、地域に広報紙を閲覧する等して事業所の活動の周知に努めている。その結果、来訪者も増加し、利用者の作品を気軽に見に来ていただいたり、定期的に行事ボランティアに来ていただいたりする等地域との交流が深まってきている。近隣に大型店舗が開業することであり、新たな交流の拡充に向けて検討されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人に感謝、日々感謝、地域に感謝」を理念に掲げ、管理者や職員は介護の仕事をさせて頂いている喜び、感謝をとて感じている。	感謝を理念に掲げ、毎朝スタッフ間で感謝の挨拶を交わしている。理念を玄関に表示することで、職員が毎日理念に立ち返り、意識しながら日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入しているが地域住民との交流はあまり出来ていない状態である。ホームには時々ボランティアが来て頂ける。年に一回各種イベントを行い地域との交流を深めるよう取り組んでいる。(作品展)	市民広報や回覧板を通して事業所の活動を積極的に紹介している。その結果、ホーム展示作品を見学に来られるなど地域住民が気軽に訪れてくれるようになったとのことである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後も散歩等を通して、地域の人々に認知症の方の理解や支援をお願いしていきたい。公民館のバリアフリー工事も済んだと自治会より報告があったので、交流会などへの参加を目指したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。自治会役員、近隣ケア、民生委員等の代表者や地域包括支援センター、市担当者や情報や意見交換を行っている。現状報告の場を設けている。	自治会長、民生委員、近隣ケアなどを交え、事業所の現状・活動内容を報告し、意見交換をしている。最近、自治会紹介による定期的ボランティアの活用や展示会の広報等サービス向上につながる計画について取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村に、運営推進会議を通し報告、相談をしている。	運営推進会議には地域包括支援センター、高齢福祉課担当者に参加していただき、意見交換や情報交換をしている。必要に応じ処遇困難事例について助言をいただく等協力体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は理解しているが、身体生命の危険が伴う場合は市町村に報告し、家族に文書にて同意をもらうように説明していく方針である。ユニット間の自由な行き来に取り組んでいる。	職員は身体拘束をしないケアの具体例について理解し、環境や声かけの工夫をする等身体拘束をしないケアに努めている。また転倒や転落等の事故を防止するため、物品の置き場所や配置などに気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の虐待は一切無い。更に今後も今までのように防止に努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは現在は対象者1名。今後、必要に応じて活用し、勉強会もどんどん増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書と口頭にて十分説明をし、トラブルの無いように努めている。危険行為がある際は家族報告、対応の相談を実施する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の「便り」と、信頼関係により、利用者・家族も意見、疑問、苦情を言える雰囲気であり、運営に反映させている。苦情受付ポストの設置。	日頃から利用者や家族とはコミュニケーションに心がけ、要望や苦情を言しやすい雰囲気づくりに努めている。家族から「ホームの作品を多くの方に見てもらいたい。」「来訪者へのお茶のサービス」等の意見・要望があり、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を開き、職員が何でも意見が言える雰囲気である。また随時、職員同士で話し合う機会を設け反映している。	代表者、管理者を交えた会議を毎月開催している。また職員同士の話し合いの中で出された意見をホームの運営に反映している。例えば車椅子でも使いやすいダイニングテーブルの設置についての意見を取り入れ、実現したとのことである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員等にも、賞与や交付金があり、また労働条件が良く高齢の職員も活躍できる職場である。しかし、職員退職の事実もありスタッフ確保には苦労がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は、職員会議等で行っている。法人外の研修情報を収集し、研修参加率を上げるよう、シフト調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会が少ないが 参加可能な機会は積極的に参加の努力はしている。ユニット間の交流は出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安が多い入居初期には特に力を入れ、職員全員で利用者様の言葉に耳を傾け、聞く体制をとっている。又モニタリング強化し、スタッフ間周知に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	長年積み重ねた状況を聞きだし、家族等が困っている事・不安な事・要望等に耳を傾け信頼関係を築いている。入所後の連絡も密に取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの長所なども説明させて頂き、本人、家族の事を第一に考えるように努めている。希望があれば他のサービス事業所と連絡をとったり、紹介させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様も家族のように共に支え合い、尊重し生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも事実を報告し、何でも言い合える関係を作っています。電話対応・盆正月帰省の外出へも協力して頂くようお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	移転した際、馴染みの近隣ケアさんや地域との関係は途切れてしまったが、古い友人は時々ホームに尋ねて来て頂ける。最近では大野町のボランティアさんも来訪して頂けるようになった。	今まで関わりのあった近隣ケアの方、友人や馴染みの店等との関係が継続できるよう外出したり、来訪していただいている。利用者それぞれの希望に応じて職員と一緒に外出したり、家族と共に美容院に行ったりしている。定期的に古くからの馴染みのボランティアに来ていただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の利用者様同士の様子をさりげなく観察しよい関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後は、年に一回程お便り発送している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の希望、意向に添った生活ができるよう心がけている。訴えの出来ない方に対しては、担当スタッフが中心に情報共有に努め、皆で検討している。	食事、散歩、入浴時等日頃のケアの際にコミュニケーションを図りながら、さりげなく要望等を聞き出している。コミュニケーションが困難な場合は表情やしぐさ等で意向を汲みあげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員が利用者様の生活歴を把握して、その人らしく生活できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のペースで過ごして頂くように、心がけている。個別に出来る家事への協力を無理の無い様して頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等とは電話や面談をして要望をお聞きしている。職員間では会議でモニタリングの結果をふまえ、介護計画を練ったもと、プラン作成している。会話の中から御本人のニーズを読み取り、Dr指示をプランに組み込み実施している。	カンファレンスは家族に参加していただくよう依頼し、利用者や家族の意向を踏まえ、介護計画を作成している。モニタリングを実施し、利用者の状況に応じて、定期または適宜に見直しを行い、家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録・業務日誌のほかに、申し送りノートを作り、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るときはするように心がけている。散歩時足を伸ばし、コンビニへ寄ったり、買い物に連れて出かける事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、民生委員、警察、消防等とは連絡を取り、安全で豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、週一回病院から往診に来て頂いている。緊急時は随時報告し、往診に来て頂きます。	本人と家族の同意のもと、ホームの提携医の往診を受けている。家族からの要請で歯科や眼科・皮膚科などの通院介助も行われている。また受診の内容についてはノートに記載され、職員間で情報共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師に常時連絡できる体制を築いている。夜間・緊急時には迅速に対応し、指示を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した利用者様には週二、三回は訪問し状態を把握している。家族の支援が困難な利用者様には家族に代わって洗濯等の必要な援助も行っている。普段より病院の相談員とは連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と提携医、職員が話し合い、思いを共有してターミナルケアを経験させて頂きました。大変勉強になり、重度化すると思われる今後も希望があれば、方針を共有して支援に取り組んでいきたい。	入居時に看取りに関する指針をもとに、対応について家族と話し合われている。重度化に伴い家族や提携医と連携を図り、方針を共有して支援が行われている。ホーム内では今後のより良い支援に向けて看護師から話を聞いたり勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が心肺蘇生法の講習を行い、随時、初期対応の訓練を行っている。今後も定期的に講習を依頼する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている。運営推進会議等で地域との協力体制をお願いしている。	今年度は夜間に2階からの出火を想定した訓練も行われた。利用者一人ひとりの身体状況により歩ける方から車椅子を使われる方まで移動方法や時間の違いについても改めて確認できたことである。また近隣に声かけして協力体制が築けるよう努めている。	緊急時、駆けつけた協力者が避難の手助けをしやすいように、利用者一人ひとりの部屋の入り口に車椅子移動・杖歩行・手引き歩行等、利用者一人ひとりの移動手段の掲示を掲げられたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、一人ひとりの人格を尊重するように心がけ、人生の先輩として言葉遣い等も気をつけております。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人らしい生活が送れるよう配慮している。トイレ誘導については尊厳を傷つけないよう言葉かけに留意し、失敗した場合でも気づかれぬようさりげなく処理する等プライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様には自由に思いを言って頂いています。スタッフも共に食事を摂る事で会話の時間を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に、居室、フロアで自由に過ごして頂いています。全体の行事には参加して頂ける様声掛け実施。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に添った美容室に訪問してもらったり、家族協力で出かけて行って好みにカットして頂いています。化粧品などの購入依頼は適宜対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる方には準備や盛り付け・後片付けを手伝って頂いています。献立の作成も好みを反映し、軟らかく煮る等工夫している。	毎日の食事作りはホーム内で手づくりの調理が行われ、野菜のきざみ、味見・配膳や片づけ等利用者それぞれができる範囲で手伝っていただいている。献立は行事食や好物など取り入れられた多彩なメニューである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的で栄養バランスを考慮した献立作成し、食事・水分摂取量を記録し全職員が把握出来るようしている。介助を有する方へはこまめな水分補給を実施。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方には、毎食後歯磨き等して頂いている。できない方は、職員が介助し、口腔ケアの重要性を理解している。個別に口腔スポンジ購入。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを観察して声掛け、誘導、介助、見守りを行っている。さりげなく介助し、本人の負担にならないよう心がけている。夜間のみポータブル使用の方もいる。	リズムやパターンを把握して、ポータブルトイレ使用やトイレ誘導が行われ、できる限り失敗のないよう支援する等、排泄の自立に向けた取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の物・食物繊維の多い食品・乳製品を使用して調理したり、ラジオ体操、レクリエーション、散歩等を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴担当のスタッフによる安全な介助支援実施。利用者様の希望の入浴順番、湯かげん、入浴する時間に配慮している。	菖蒲湯やゆず湯で季節感を演出したり、利用者一人ひとりの希望に沿った入浴について対応している。入浴を拒まれる利用者についても職員の声かけ等により入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様には自由に休息して頂いている。家で過ごしている時のように、就寝時間も特に決めておりません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解しており、利用者様の症状の変化を観察して、主治医報告しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験が活かせる場所を提供し、その人らしい暮らしができるよう支援している。裁縫・家事・衣類の修正も得意な利用者様に協力して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられる支援は厳しい状態である。希望の利用者様は家族の協力のもと、外出して頂いています。散歩や日光浴程度の外出は希望時行っている。	天気の良い日には戸外に出て散歩や日光浴を行っている。田植えや稲刈りの風景を見たり、民家の花壇から四季を感じたり、地域の方々とのふれあいを楽しんだりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者で可能な方は自己管理している。普段はお金を預かっておらず、必要なものは家族連絡し依頼又は立替えにて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話は自らかけて頂いている。手紙に関しては、字が書けない方は、職員が支援して年賀状を送りました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段は静かな過ごしやすい環境である。快適に生活出来るよう個々の居室にエアコンがあり、温度調整を行っている。フローアも常に温度湿度を快適に保っている。	共用の空間は明るく清潔感があり、空調管理も行き届き、快適である。通路の壁面には利用者が共同で四季を描いた貼り絵、ぬり絵やスナップ写真などが掲げられ、利用者一人ひとりの作品の発表の場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごせる居間を提供し、居室では自由に生活して頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスに関しては会社で用意しましたが、馴染みの持ち物を持ってきて頂いています。	整理整頓された部屋、自身で描いたぬり絵に囲まれた部屋、おしゃれを楽しんでいる人の部屋等があり、それぞれの部屋にその人らしい生活スタイルを感じ取れた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がすべて行ってしまうのではなく、そばに付き添って声掛けを行い、本人の力を引き出すようにしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500397		
法人名	ハートライフ株式会社		
事業所名	グループホーム ハートいなば(2番館)		
所在地	岐阜県各務原市大野町2丁目224番1号		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村受理日	平成28年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2012_022_kani=true&amp;lgvsoCd=2170500397-00&amp;PrEfCd=21&amp;VersiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2012_022_kani=true&amp;lgvsoCd=2170500397-00&amp;PrEfCd=21&amp;VersiOnCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成28年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人に感謝、日々に感謝、地域に感謝」を理念に掲げ、管理者や職員は介護の仕事をさせて頂いている喜び、感謝をととても感じている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入しているが、地域住民との交流はあまり出来ていない状態である。ホームには時々ボランティアが来て頂ける。年に一度各種イベントを行い地域との交流を深めつつある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後も散歩等を通して、地域の人々に認知症の方の理解や支援をお願いしていきたい。公民館のバリアフリー工事が済んだそうなので、積極的に参加していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。自治会役員、近隣ケア、民生委員等の代表者や地域包括支援センター、市担当者と情報や意見交換を行っている。現状報告の場を設けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村に、運営推進会議を通し報告、相談をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は理解しているが、身体生命の危険が伴う場合は市町村に報告し、家族に文書にて同意をもらうように説明していく方針である。ユニット間の自由な行き来に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の虐待は一切無い。更に今後も今までのように防止に努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2Fでは現在対象の方はない。今後、必要に応じて活用していきたい。勉強会もどんどん増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文書と口頭にて十分説明をし、トラブルの無いように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の「便り」にて状況報告し、利用者・家族も素直に意見、不満や苦情を言える雰囲気や大切に、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議を開き、職員が何でも意見が言える雰囲気である。また随時、職員同士で話し合う機会を設け反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員等にも、賞与や交付金があり、また労働条件が良く高齢の職員も活躍できる職場である。希望の休みも取れる状態である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は、職員会議等で行っている。法人外の研修情報を収集し、積極的に参加していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会が少ないが参加できるよう調整し参加出来る様取り組んでいる。ユニット間の交流は出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安が多い入居初期には特に力を入れ、職員全員で利用者様の言葉に耳を傾け、聞く体制をとっている。日々のモニタリングメモをスタッフ間で周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け信頼関係を築いている。それぞれの家族の今に至る状況を聞き、適切に対応している。又解らない事などは連絡を取り、情報収集に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの長所なども説明させて頂き、本人、家族の事を第一に考えるように努めている。希望があれば他のサービス事業所と連絡をとったり、紹介させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様も家族のように共に支え合い、尊重し生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも信頼関係を築き、何でも言い合える関係を目指しています。状況報告し、家族協力・電話・外出の機会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が訪問に来て頂ける事が多い。また定期的にボランティアの方が歌やゲーム等をやって下さる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆どの方が日中はフロアーに集まり関わっている。普段の利用者様同士の様子をさりげなく観察し良い関係が築けるように支援している。利用者間のトラブルが起きないよう職員が関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後は、年に一回程 お便りの発送をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の希望、意向に添った生活が出来るよう心がけている。行きたい場所(昔住んでいた場所)、食べたい物等、できる範囲内で支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員が利用者様の生活歴を把握して、その人らしく生活できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のペースで過ごして頂くように、心がけています。家事もトラブルなく出来るよう当番表を掲示し、無理なく出来る環境を作っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等とは電話や面会時に話をし要望等お聞きしている。職員間の会議でモニタリング結果をふまえ、介護計画を話し合い、ご本人・家族のニーズを組取り反映している。Drの指示も介護計画に盛り込んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録・業務日誌の墓に、申し送りノートを作り、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るときはするように心がけている。馴染みの理髪店へ通う為や、買い物に出かける等 家族協力もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、民生委員、警察、消防等とは連絡を取り、安全で豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、週一回往診に来て頂いています。異常なければ二週間に一度フロア毎の診察で、緊急時は別に往診に来て頂けます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師に相談できる関係を築いています。夜間・緊急時には迅速に対応し、指示を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した利用者様には週二、三回は訪問し状態を把握している。家族の支援が困難な利用者様には家族に代わって洗濯等の必要な援助も行っている。普段より病院の相談員とは連絡を取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と提携医、職員が話し合い、思いを共有してターミナルケアを経験させて頂きました。大変勉強になり、重度化すると思われる今後も希望があれば、方針を共有して支援に取り組んでいきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法の講習を行い、随時、初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を隣接施設と協力し行っている。運営推進会議等で地域との協力体制をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、一人ひとりの人格を尊重するように心がけ、人生の先輩として言葉遣い等も気をつけております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様には自由に思いを言って頂いています。スタッフも共に食事を摂る事で会話の時間を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に、主にフロアで自由に過ごして頂いています。体調や気分でも自由に居室で過ごせるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に添った美容室に訪問してもらったり、家族協力で馴染みの店に出かけて行って好みにカットして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる利用者様には食事の準備、後片付け等手伝って頂いています。当番制としトラブル回避出来ています。献立作成も好みを反映し、軟らかく煮る等工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的でバランスの良い献立を考え、食事・水分摂取量を記録し職員全員が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方には、毎食後歯磨き等して頂いている。できない方は、職員が介助し、口腔ケアの重要性を理解している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを観察して声掛け、介助、見守りを行っています。さりげなく介助し、本人の負担にならないよう心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の物・食物繊維の多い食品を使用して調理したり、ラジオ体操、レクリエーション、散歩等を心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴担当のスタッフによる安全な介助支援の実施。利用者様の希望の入浴順番、湯かげん、入浴する時間に配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様には自由に休息して頂いている。家で過ごしている時のように、就寝時間も特に決めておりません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解しており、利用者様の症状の変化を観察し、主治医報告しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの生活歴を把握し、その生きてきた経験が活かせる場所を提供し、その人らしい暮らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられる支援は厳しい状態である。希望の利用者様は家族の協力のもと、外出して頂いています。日光浴・散歩程度の外出は希望時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金を預かっておらず、必要なものは御家族に依頼し購入して貰っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話は自らかけて頂いています。手紙も自由に出せる状況です。字が書けない方は、職員が支援して年賀状を送ったりしました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段は静かな過ごしやすい環境である。快適に生活出来るよう個々の居室にエアコンがあり、温度調整を行っている。フローアも常に温度湿度を快適に保っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごせる居間を提供し、居室では自由に生活して頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスに関しては会社で用意しましたが、馴染みの持ち物を持ってきて頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がすべて行ってしまうのではなく、そばに付き添って声掛けを行い、本人の力を引き出すようにしています。		